表11.　アルテプラーゼ静注療法説明文書の例

あなたの病気について
＜脳梗塞＞

脳の血管が細くなったり，血のかたまり（血栓）が詰まったりして，脳に酸素や栄養が送られなくなるため，脳の神経細胞が傷害される病気

＜脳血栓症＞
動脈硬化のため脳の血管が徐々に細くなり，詰まって，脳の細胞が障害されるために起こる 脳の血管が詰まって脳細胞が傷害されるために起こる

＜脳塞栓症＞
心臓や脳につながる大きな血管に付いた血栓の一部がはがれて脳の血管に流れて脳の血管が詰まって脳細胞が傷害されるために起こる

＜＜主な症状＞＞
手足の麻痺，しびれ，ろれつが回らない，めまい，意識障害など

脳梗塞の治療では，できるだけ早く（症状が出現してから3時間以内）脳の血の流れを良くすることが大切です．

血栓溶解療法（アルテプラーゼ静注療法）は，詰まった血管の血栓を溶かすことによって，血液の流れを再開させ，脳梗塞を治療します．

方　法；症状が出現してから3時間以内にアルテプラーゼというお薬を，0.6mg/kg（34.8万国際単位/kg）の10%を注射で，残りの90%を1時間で点滴します．

効　果；米国で行われた臨床試験では，アルテプラーゼを使った人の39%がほとんど障害のない状態にまで回復しました（使わなかった人では26%でした）．日本で行った試験では，37%の人がほとんど障害のない状態まで回復しました．

副作用；この薬の特性から最も多い副作用は出血です．その程度は様々ですが，脳梗塞の患者さんでは，特に「出血性脳梗塞」に注意する必要があります．

脳の血管が詰まったことによってその先の血管ももろくなるため，この治療によって詰まった血管の血の流れが再開すると，この血流に耐えきれず，血管の壁が破れて出血を起こします．この状態のことを「出血性脳梗塞」と言います（これはこの治療を行わなくても起こることがあります）．この程度は様々で，CT検査で初めてわかるものから症状が悪化するもの，場合によっては，命に関わってくるようなひどいものまであります．米国の試験では，「症状の悪化を伴った出血性脳梗塞」は6.4%で，うち死亡は2.9%でした（アルテプラーゼを使わなかった人では0.6%で，うち死亡は0.3%でした）．日本の試験では，5.8%で，うち死亡は0.9%でした．

この「症状の悪化を伴った出血性脳梗塞」は，血圧の高い人，血糖の調節が困難な人，意識状態の悪い人などで起きやすいことがわかっており，このような危険性が高い人には行えない治療です．

その他の副作用として，消化器，膀胱や肺など，いろいろな臓器出血を起こしたり，出血に伴う貧血，血圧低下，発汗，熱感，発熱などがあります．いずれの副作用も1%未満です．